

古代・鬼ノ城

車は細い山道をくねくね曲がりながら登って行った。生まれたばかりの芒は秋の到来を演出してくれている。標高 397mにある岡山県総社市の国指定史跡・鬼城山を訪れた。この山頂には壮大な古代山城「鬼ノ城」が再現されていた。

城壁の周囲は 2.8km に渡って石垣・土塁によって取り巻かれており面積は 30 ヘクタール。そこには東西南北に 4 か所の門。水門は 6 か所。食糧貯蔵庫に管理棟など数多くの建物跡が確認されている。そして場内の敷地には日本の古代山城では初めての発見となった。

なぜこのような場所にこれほど大規模な城が築かれたのか。時代は 7 世紀の東アジアの戦乱期。朝鮮半島の古代国家である百済を唐・新羅連合軍が滅ぼす事件が起こる。それを契機に、朝鮮半島へ進出していた大和政権は白村江の



戦いで唐・新羅連合軍に大敗。その後敵国の進攻に備えるため、西日本の要所には大野城をはじめ朝鮮式山城を築城したことが「日本書紀」に記載されている。鬼ノ城もその一つと考えられており、2006（平成 18）年には日本 100 名城（69 番）に選定されている。

古代史の真実に迫ろうとすれば、それは残された古代の文献や伝承、考古などによる以外にない。しかし時に大いなるロマンを残したままであった方が良いでしょうにも思えることもある。

山頂近くの展望台に立って周りを一望すると、眼下には古代吉備の中心地であった総社平野や小島半島、瀬戸内海、更には晴れた日は四国山脈まで遠望できる。古代人も同じ眺めをここから見えていたに違いない。

撮影 2011 年秋



